

後援会 便り

Vol.1
2020.7.13



【会長挨拶】

杉山 悟

この度、新潟リハビリテーション大学の後援会の会長を務めることとなりました杉山悟と申します。不慣れではありますが、皆様のご支援をいただきながら務めてまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、大学の授業や行事が大幅に変更となり、学生の皆様、保護者の皆様は大変不安であったことと思えます。そのような状況において、村上市長から直接学生の支援の申し入れがあるなど、多く皆様から支援をいただいていることに厚くお礼申し上げます。一日も早く普段の日常に戻ることを切に願います。

この後援会でありませんが、学生の福利厚生と大学の維持発展に寄

与することを目的として、今年度、発足いたしました。大学と連携しながら学生一人ひとりが、勉強や課外活動等において充実した学生生活を送り、自信に満ちた社会人として新たな一歩が踏み出せるよう、より一層支援の充実に努めてまいりたいと考えております。

これからも後援会活動への会員の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

【後援会発足に寄せて】

新潟リハビリテーション大学

学長 山村千絵

このたび、学生たちの教育活動、日常活動等を支援する目的で、保護者様と教職員からなる、「新潟リハビリテーション大学後援会」が発足いたしました。保護者様は、本学を応援し、貴重なご意見をくださる、本学

話題



6月15日から大学への分散登校が開始されました。しばらく閑散としていたキャンパスにも、少しずつ活気が戻りつつあります。



にとつては、かけがえのない大切なパートナーです。本来ならば、後援会設立総会等を開催し、学長から皆様に直接ご挨拶を申し上げるべきところではございますが、書面でのご挨拶となりますこと、お許しください。

本学は、教育理念である「人の心の杖であれ」を大切にし、優しい心遣いと思いやりをもち、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

学生たちは、しばらくの間、新型コロナウイルスと共存しながら、いつもの年とは異なる大学生活を余儀なくされておりますが、より適切な教育環境や生活環境を実現できるよう、本学はたゆまぬ努力を続けております。保護者様におかれましても、本学の教育理念にご賛同くださり、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【役員・大学担当者紹介】

令 和二年度の役員と大学の担当者を紹介いたします。

会長 杉山 悟（理学二年）
副会長 一ノ瀬直子（作業二年）

副会長 矢澤 敏（作業二年）
監事 吉田果林（心理二年）
大学 学部長 高橋明美
学生部長 佐藤 厚
学生副部長 星野浩通
学務課 佐藤祐汰
どうぞよろしく願います。

【令和二年度総会中止と書面開催について】

学生部長 佐藤 厚

本 年度後援会総会を大学祭に合わせて六月二十七日に予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、大学を会場としての開催は中止といたしました。議事につきましては書面評決という形をとらせていただきます。同封の総会関連書類をご覧ください。ご意見などは所定の手続きにて表明していただけますようお願い申し上げます。

【新型コロナウイルス感染症拡大に関する学生支援について】

学部長 高橋明美

今 年度は新型コロナウイルスの影響で、年度が始まって間もなく臨時休校となり、学生はもとより、保護者の皆様も本当に不安な日々を過ごされていたのではないかと察しいたします。

ようやく六月一日より休校を解除し、六月十五日から分散登校を開始しました。一先ず無事に再開できましたことに、教職員一同安堵しております。

大学再開にあたっては、大学側としても三密の回避に配慮し、感染防止に向けた環境整備を進めてきました。十五日からは、全専攻全学年の学生に、感染防止講習を実施し感染しないための意識づけを行っています。

現在、一時的には感染拡大が収束傾向にありますが、再び次の波が来るのが予想されます。大学としてもこの時期に感染防止に向けた体制を整えていきたいと考えています。大学の取り

組みについては、大学ホームページにその都度挙げていきますので、そちらを是非ご覧ください。保護者の皆様のご健康を祈念しております。

【学内トピックス】

学生副部長 星野浩通

令 和二年度入学式開催

四月一日に入学式が行われました。新型コロナウイルス感染予防のため、すべての窓を開放し、まだ肌寒い中での入学式でした。本来であれば新入生は保





五月中旬から、大学講義開始に合わせ、3Dプリンタを使用して、学生全員のフェイスシールドを作成し配布することになりました。

フェイスシールド作成

護者の皆様や、多くの来賓に祝福され、新たなスタートを迎えるはずでしたが、簡略化した入学式となりました。新入生に皆様には社会情勢的に不安なスタートとなりましたが、新たな目標に向け勉学と大学生活を楽しみ、四年後には笑顔で卒業式を迎えられるように教職員一丸となって支援していききたいと思います。



ました。マスク不足や感染予防用品の供給が滞っているため、少しでも感染を予防するための試みです。学生だけでなく村上地域の行政や施設にも配布する予定で作成をしています。

講義準備

五月中は教員もインターネットを使用したWeb授業の資料を工夫しながら作成しました。学生もいきなりパソコンを利用した講義形態となり、不安を抱える中でパソコンに使い方、視聴覚資料の見方や課題提出方法について準備をしました。お互いが未経験の中で不具合などあ



ある日の学食の様子。分散登校のため、利用者が少ない日が続いています。テーブルや椅子は「三密」を避けるよう、教職員が力を合わせて模様替えをしました。

話題

りますが、無事に六月からの授業が開始されました。

パ

ラスルと折りたたみみのテーブル椅子セットを後援会費から購入し、大学に寄付しました。このセットは学食の混雑を軽減させ、感染対策に役立てるため、天気のいい日に屋外にセットされます。

風に吹かれながら、ひとときでもオーブンテラスの雰囲気を楽しんでもらえればと思います。





大学の活動紹介

【地域とともに介護予防】

作業療法学専攻 藤本 聡

新

瀧リハビリテーション大学では、二〇一七年六月より月一回認知症カフェ「リハ大オレンジカフェ」（以下、カフェ）と、その内年一回は認知症サポーター養成講座を開催して約三年間が経過しました。今までカフェは、二〇二〇年二月で三十

一回開催し、参加人数は地域住民が延べ人数で七百二十九名、平均約二十四名で、今年の二月には四十一名もの多くの方に参加していただきました。その後、新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止となっています。学生は延べ人数で七十四名が授業やボランティアとして参加しました。

認知症サポーター養成講座は国の政策として、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成するものです。また、認知症カフェも国策として、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進しています。

本学において、認知症サポーター養成講座と認知症カフェを開催することは、地域住民の認知症サポーター養成と、認知症カフェの役割としての社会貢献の他に、学生の教育の場としても、意義があると考えています。今後も、リハ大オレンジカフェ



を楽しみにされている人のためにも長く継続していきたくと考えています

手話サークルによるクイズ

編集後記

はじめじめとした暑い日が続き、夏の訪れを感じます。分散登校も始まり、学生の元気な声を聞き、授業が開始できたことによる安心と、今後の感染状況への不安との両方を感じながら、日々感染予防対策を行っているところでございます。皆様もお体に気をつけて楽しい夏をお過ごしください。至らない点もあつたかと思いますが、最後までお読みいただきありがとうございます。次号も暖かく見守っていただけると嬉しく思います。

（佐藤祐汰）